



印西市議会議員

# こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.23

発行/増田葉子 2021.1.31 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com  
ホームページもご覧いただけます http://www.masuda-yoko.com

コロナ禍お見舞い申し上げます。市議会12月定例会の議案と一般質問などご報告します。

## 12月定例議会の議案

### ①条例の一部改正 4件

コロナ禍の影響で下がった民間企業の賞与水準にあわせ、公務員の期末手当も引き下げる人事院勧告に従い、一般職・特別職の給与関係条例3件のほか、内野学童クラブの移転に伴う学童クラブ設置管理条例の改定。

### ②補正予算 4件

- ・一般会計／固定資産税の償却資産分が約11億円増収になり、当初予算で予定していた財政調整基金の取崩しを8億4千万円減らしている。歳出では、65歳以上の無料PCR検査費、ひとり親家庭への追加の家計支援（全額国庫補助）など、二つの補正予算あわせて3億3,785万円を増額。
- ・特別会計／国民健康保険と介護保険の2会計で、国保会計では、高額療養費が6,600万円増額となっている。

### ③契約の締結 2件

- ・本埜支所庁舎の大規模改修工事を、千葉市中央区の白井興業(株)と2億3,757万円で契約。
- ・瀬戸の市井橋の改修工事を船橋市の(株)ティーエスケーと3億円で契約。

### ④指定管理者の指定 7件

- ・4つのコミュニティセンターの指定管理者に、地域住民が組織する法人・団体を公募せずにそれぞれ5年間指定。
- ・印旛中・本埜中学校区、西の原中学校区の計9学童クラブを2つのブロックで公募し、2つともシダックス大新東ヒューマンサービス(株)を3年間指定。昨年度の木刈中学校の4学童クラブと同じ法人で、同法人は計13クラブの指定管理者となっている。
- ・精神に障がいがある人の自立訓練施設「ふれあいサポートセンターいんざい」の指定管理者に、公募せずに引き続き社会福祉法人印旛福祉会を3年間指定。

### ⑤市道の認定 44路線

新たに宅地開発された牧の原4丁目で27路線、舞姫1丁目で17路線を市道として認定。

### ⑥財産の取得 1件

児童生徒一人に1台のパソコンを貸与する事業で、子ども人口の増加による追加分480台とソフト一式、LAN整備し

ない学校用の可動式アクセスポイント203台を、(株)大崎コンピュータエンジニアリングから4,144万円で購入。

### ⑦報告 1件

道路の瑕疵による車両損傷事故の和解金。

(議案の詳細はHPで解説しています。あわせてご覧下さい。)

## 推計上回るのか？読みが甘いのか？

上記の補正予算のなかの債務負担行為（複数年で支出を義務化する制度）で、「原小学校の校舎増築工事設計費」がもり込まれていました。急激な子ども人口の増加で、小倉台小学校にはじまったプレハブ校舎の増築は、毎予算ごとに、設計費だ、工事費だともり込まれており、「ああ、また」と受け流してしまいましたが、原小学校に校舎が増築されるのはなんと2回目、2棟目の設計費でした。推計を超えて子ども人口が増えているのでしょうか、それとも推計が甘いのでしょうか。

## 相次ぐ校舎の増築

ニュータウン中央駅圏の人口増に伴う小倉台小学校のマンモス化は、今は武西学園台3丁目の住宅街となってしまった「ニュータウン計画上の小学校用地」が、土地利用計画の変更で売却され、小学校ができなくなってしまったことに始まります。印西市が平成15年に「そこには学校を造らない」と決定していたことから変更されたのですが、教育委員会も議会も現状を予測できず、過去の決定の再検討がされることもありませんでした。小学校新設の声は多く寄せられていますが、すでに「今となっては」という話です。

ニュータウン中央駅圏に続いて、印西牧の原駅圏でも子ども人口が急増しています。原小学校だけでなく、これから増築工事を始める牧の原小学校も、着工する前から2棟目の増築を計画しなくてはならない状況です。滝野中学校では、も

## 議会報告会 は…

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今回の報告会は中止させていただきます。

ともとのクラス数（10クラス）を大幅に上回る3階建て校舎が増築される計画です。

今後の予定も入れ時系列に並べてみました。

平成 27年度	●牧の原小学校が1学年1クラスで開校 (将来は高齢者施設にも転用できる造りという説明)
28年度	●原小と西の原小の学区を変更 ●学校適正規模・適正配置基本方針を策定 (小規模校の統廃合と大規模校の対応策をまとめた)
29年度	●永治小が木刈小に統合 ●小倉台小の校舎増築（8クラス分）
30年度	●原小の校舎増築（6クラス分） (市街化調整区域の宅地開発は予測できないので考慮していないが、これで十分と答弁)
令和 元年度	●宗像小がいには野小に統合 ●本埜1小と本埜2小が統合されて本埜小が開校 ●西の原中の校舎増築（10クラス分）
2年度	●木刈中の校舎増築（8クラス分） ●滝野中学校区の児童生徒数を再推計
3年度	●牧の原小の校舎増築（11クラス分予定）
4年度	●滝野中の校舎増築（3階建18クラスで予定） ●原小の校舎増築（2棟目）
5年度	●牧の原小の校舎増築（2棟目）

## 学区の自由化を検討しては？

印西市の学校規模への対応方針は、①校舎の増築、②学区の変更、③学校新設という順位です。学区は地域コミュニティのベースになるものと私は考えてきましたので、学区変更よ

り前に校舎の増築で対応するという方針には賛成でしたが、翻弄されるように増築を繰り返すのはいかならないものでしょうか。学校生活のほとんどをプレハブの校舎で過ごす子どもも出てくるだろうと思います。また、これから大規模校として対策をとる滝野中に、本埜中を統合しようとしています。なぜ、今、あえて？と思います。もう少し落ち着いた対応ができないのでしょうか。

統廃合が検討されている船穂小の地域から、小規模校への就学意向を確認すべきだという要望が出され、小倉台小の保護者に意向調査がされました。それによると、18%の保護者が小規模校を評価する意見を持ち、スクールバスがあれば小規模校への就学を検討するという意見がみられました。

全市的に調査しても、おそらく同様の割合で「小規模校志向」があるのではないかと想像されます。コロナ禍でもあります。マンモス校に通うよりも、密になりにくい小規模校で、ていねいな学習支援を受けたいと考える人がいても不思議はありません。そうした意向を教育委員会は、たった1割と考えず、検討していくべきだと思います。

15年ほど前に「学校選択制（学区の自由化）」が流行しました。いつの間にか下火になりましたが、今も学区を弾力的に運用している自治体はあります。

その一つの自治体にヒアリングしたところ、やはり1割くらいの保護者が積極的に小規模校を選択していると聞きました。印西市でも、これ以上の増築を繰り返すよりも、学区をもう少し柔軟に考えていくべきときではないかと思います。

## 私の一般質問

# 福祉の「質」はだれの責任？

以前は県が行っていた福祉事業の指定や認可が市に移管され、介護や保育などの福祉サービスの「質」は市の責任が大きくなっています。さらに、幼児教育の無償化で、保育や子育て支援サービスの質も市の責任が大きくなりました。一方、保育園が急増するなかで、原山にあった小規模保育園が突然の閉園となり一時マスコミをにぎわし、保育の質を疑う事案も耳にしています。また、介護サービスの質の要であるケアマネージャーの事業指定もすでに2年前に市に移管されており、福祉の監査体制がどのようになっているのか、確認する必要性を感じ質問しました。

私の質問	市の答弁
突然閉園となった小規模保育施設にはどのような指導・監査が行われてきたか？	施設長が不在だった時期もあり、文書による指導をこれまで3回行っているが、監査は実施をしていない。
監査実施要綱によると年に1回は実地監査をすることになっているが、なぜしてこなかったのか？	今年度要綱をつくり監査を予定したがコロナ禍のためできなかった。
かなり以前からこの施設はあったが、ようやく今年度に要綱ができたのか。事故がなかったから「やらない」のではなくて「できない」のだ。監査の体制はできているのか？	担当者の専門知識の習得のための研修体制を整え、県、関係機関とも情報共有を行っていく。
これから人材育成ということだが、保育の質や保育園の運営を熟知している園長経験者の再任用職員を活用して、早急に監査・評価の体制づくりをしてほしい。いかがか？	経験がある保育士は、経験から得た対応なども熟知している。保育の質の向上のためにも期待できるものと考えている。